

期待のない不安はないし、不安のない期待はない

〜期待100不安100の4月〜 丸小野 聡暢

4月は自身自身に期待する

何の根拠もありませんが、4月の自分自身には「何かできそう」「今年こそは変わろう」と期待する自分がいませんか。これは先生方だけではなく、子どもたちも同じ気持ちだと思えます。4月はこの気持ちを利用して学級づくりを進めると上手くいきませす。よく、前年荒れていたというクラスが4月になった途端上手く行くということがあると思えます。これは子どもたちが変わったという気持ちと新しい担任の指導がマッチするわけです。

という僕自身も学級づくりに関しては言語化できていないことが多く、経験や感覚でやっている部分があります。独特なセオリーや一般化できないことも出てきて、ちぐはぐな文章になるかも知れませんが、一つでも先生方の4月からの学級づくりのヒントになれば幸いです。

教師主体の学級づくり

先生方は学級を持つ時に1年後の子どもたちの姿として「自主的・主体的に学ぶ集団」や「自治的な集団」を目標の1つに掲げる方は多いのではないのでしょうか。では、どのようなクラスが主体的かと言えば学級王国と言われる集団です。学級王国と言われるとみなさんは良いイメージを持たれないと思えます。「先生主体」「先生の自己満足的な学級経営」という悪しきイメージがパツと思いつかぶからだと思います。しかし、そのようなクラスがうまくいっていることが多いのが現実です。ウイキペディアで「学級王国」の言葉を調べたら「子供の自主性と主体性が前提とされており、学級においての学級会、係、班による集団的な自治が基本とされていること」と書かれています。この姿こそがみなさんが求めている集団ではないでしょうか。

しかし、主体性というものは子どもたちが自ら発揮できるわけではありません。主体性と言う言葉から子どもがしたいことを自由にさせる先生がいますが、これでは失敗します。実は逆で、子どもたちは、判断基準が明確で限定されている中の方が自由度は増していきます。主体性を引き出すために、4月は教師主導で学習や生活のルールを教え1学期の間に徹底していくことが大切です。しっかりと管理された集団が主体的で自治的な集団へと変わる第一歩です。ただ、いつまでも教師の指導性が強いままいると子どもたちが主体的になっていきませんので、子どもたちの教師への依存性から自分たちの有能感を高めていくことにシフトしていかなければいけません。

4月は本当にクラスが壊れているのか

SNS映えを気にする先生方はクラスを立て直した経過を覚えてもらうために、4月に大変なクラスを持ったと言われる方が多いですが、本当にそうでしょうか。(実際に大変なクラスもあると思いますが…) 昨年まで違うクラスの子どもたちが集まるわけですから、当然新しい担任の指導に当ては

まっつけないわけです。いくら学年できま
りを決めていてもクラスによつては、徹底
されていなかったり、大切にすることがち
がっていたりしてバラバラなわけです。
ただ、この先生方は子どもたちの主体性の
引き出し方を知っています。先生が大切に
している価値観に染め、いち早く自分の指
導の管理下に当てはめた学級王国を作つて
いるのです。

40人を一斉に指導する力

そもそも教師の本当は何でしょうか。最
近はこの学校でもそうだと思いますが、
個に応じた指導が求められます。しかし、
学級は1人の大人と40人の子どもで構成
されています。そこから考えると、教師の
本来の仕事は集団を指導、それも一斉に指
導することではないでしょうか。それこそ
が集団づくり・学級づくりのはずです。も
ちろん「個」は大切ですが、集団指導につ
いてこれられない子どもに初めて個別指導が
必要になります。しかし、最近逆になつ
ている気がします。個別が先で集団が後。
だから、集団づくりが難しくなっているの
ではないでしょうか。集団の中で個を育て

ていかなければいけません。気をつけなけ
ればいけないことは、クラスをまとめよう
とするとお互いしんどくなります。まとめ
るということはその枠組みからはみ出る子
がいるからです。学級づくりは子ども一人
一人の力を伸ばす環境設定の場と考え、同
じ教室で同じ課題に取り組み、お互いに励
まし合つたり刺激し合つたりしながら成長
していく共同を大切にしていきましょう。

一貫性を守るためのマイナーチェンジ

先生方は真面目な方が多く、一度決めた
ルールはなかなか曲げられないと思います。
また、一度きまりを破ると禁止ルールをど
んどん追加してお互いを締め付けていませ
んか。でも、それはやめましょう。上手く
いかなければ、クラスの子どもたちの様子
に合わせて辞めたり微調整をしながら変え
たりする勇気が必要です。

授業開きを大切に

黄金の3日間や30日と言われますが、
やはり初日が肝心です。子どもたちは「今
年はどんな先生だろう」という思いで教室
にいるはずです。もちろん言葉で先生の思
いを伝えることも大切ですが、授業をする

ことで、授業に力を入れる先生だというメ
ッセージを伝えるべきです。僕は毎年、国
語で授業開きをし、ノート指導を行います。

ノート指導は板書を写させることではあり
ません。ノートを通して子どもを変えらるこ
とです。「1行目の上から2センチくらいあ
けて、ノートの取り方って書いてね」「次は、
1行開けて題名を書くよ。題字は大きいか
ら2行を使って書いてね」などと具体的な
指示を出しながらノートをとらせていきま
す。こうしていくと、子どもたちは、先生
の指示に従えば美しいノートができるとい
う教師への信頼感と自分もできるんだとい
う自己肯定感を感じるわけです。帰宅後は
保護者から「今年の先生はどんな人だった」
と聞かれれば、自信満々にノートを見せな
がら「こんな授業をする先生だよ」と会話
が弾み、教師に対する保護者からの信頼も
得ることができます。

4月は詰め過ぎてしまうことが多いです
が、学級開きの方法論を取り入れるのでは
なく、教師の哲学を持ち、それに当てはま
る実践を1つずつ取り入れていくといいの
ではないでしょうか。